

⑭「星になりたい」善行さえも避難されてしまうみにくい鳥よだか。全ての鳥にバカにされ、死を覚悟した彼が取った行動とは？ 宮沢賢治が贈る、みにくい容姿のうちにあるやさしさを描いた、少し悲しい物語。

⑮醜く嫌われているが美しく澄んだ心のよだか。彼は生きるために他の生命を犠牲にすることさえできなくなる。あまりに優しすぎたよだかはついに巣から飛び出す。暗闇の中光々と輝く星という死に場所をめざして。

⑯みにくいと呼ばれるよだか。はたしてそうだろうか。本当は、命という答えを探すやさしい鳥。しかし、その答えは見つからず、よだかの命は星となり永遠に焼け続ける。そんなよだかの星をいっしょに見に行きませんか。

⑰あなたはよだかという鳥を知っていますか？ この本はよだかが悩み、鷹から逃げ、空に輝く一つの星になりたいと願い、苦悩する物語です。最後にはよだかは星になり、今でも輝き続けています。

⑱顔がみにくいというだけで仲間にとまれるよだか……。おまけに共通が多い鷹には改名しないと殺すと言われてしまう。よだかは生きることより「星」になることを願った。果たして願いは叶うのだろうか?!

⑲主人公よだかはいつもみにくさ故に仲間から嫌われていた。自らでもう生きることが望まず死と向かい合わせになったとき、よだかは空に高く大きく羽ばたいた。そこで待っていたよだかの運命は……!!

⑳顔はどろどろのみそをつけたようなくちばしは平たくて耳までさげよぼよぼで一問も歩けない。そんな嫌われ者の鳥よだか。独特の宇宙感覚や象徴的心情に満ちた詩と童話を残す宮沢賢治の人気代表作。

㉑よだかは、みにくい鳥ではあるが心やさしい鳥である。鷹の命令に苦しむよだかは、ついに決意を固める。よだかは、夜の空へ飛び上がり、星にお願いした。はたして、よだかの願いは叶うのだろうか。

㉒よだかは他の鳥たちから嫌われ批判され思い悩む。そして生命の殺し殺されの関係に耐えられなくて、最終的には星になりたいと願う。そんな切なく純粋な心を持つよだかは、果たして星になれるのだろうか。

㉓鷹に殺すと言われ、初めて自分も羽虫たちを殺していることに気づいたよだかが、誰も

傷つけることのない星になろうと、太陽や星に願い、ついには星になることができたという感動のお話。

①鷹の優越感のために改名を迫られ、また、自分の存在について思い悩むのだが。鷹以外の鳥にも嫌がられているよだかの出した答えは、常に輝く星に生まれ変わろうとすることだった。

⑥鳥で構成された人間社会で、一羽の鳥が自分が生きていることの意味を見失ってしまふ。こんな現代の中でなぜか涙が流れ、どこか懐かしいものを心に戻してくれるような、宮沢賢治の感動のストーリー！。

⑤この小説の世界は人間の生活感をただよわせる。主人公の気持ちなどをリアルに表現。心優しい主人公はなぜ嫌われているのか。そして感動の結末。最後に主人公は私たちに何を伝えたかったのか。

④思いがけない始まりと感動の最後で、よだか自身も悩んだ。「一体何が悪いのか。」ただ外見だけで判断される今の世の中に似ているところや、思わず気持ちが入り込んで応援したくなるところと、何度も読みたくなる本です。

④生きるためには他の生命を犠牲にしなければならないのだという賢治の声が聞こえる。人間という存在の業の暗黒と、それでもなお自己を犠牲にして他人のために生きようとする明るさが私たちに元気をくれる！

③『よだかは自分のからだが青い美しい光になって静かに燃えているのを見ました：』童話作家としての宮沢賢治が主人公よだかを通して、今も求められている『万人共栄の理想世界』への願いを託した小説です。

③一度もいい思いをしたことがなく、みにくい鳥といわれ続けた鳥、よだか。生きる自信をなくし、最後に輝きたいと思ったよだかは最後に何をしたのか。よだかの精一杯な思いが私たちに伝わる物語です。

②みにくい鳥ということから他の鳥に嫌がられているよだか。ある日、よだかに似ている鷹からとんでもないことを言われてしまふ。そしてよだかはあることを決意した。悲しいよだかの姿を描いている宮沢賢治の作品。

②よだかが鷹に名前を改めろと迫られ、お日さまやお星さまに星になるのを断られ絶望していく姿を描き最後には、よだかの星になれるという最後まであきらめなければ願いがかなうということを教えてくれる一冊。

②この小説は、誰もがコンプレックスを持っているのでよだかの気持ちになり、そしてよだかの自分を犠牲にしても他の命を思いやる気持ちが心を打ち、絶対星まで行くという強い意志が感動を呼ぶ。

②夜しか空を飛ぶことのできない鳥よだか。よだかの清純な心がある日、死への決意をし

てしまふ。その時のよだかの心持ちはどんな感じだったのか。何がよだかの気持ちを変えたのか。結末はいかに。

②たかの名前を持つ鳥よだか。でもたかであっても鷹でない。鷹はそんなよだかが気に入らない。ついによだかに鷹が迫る。生きるか死ぬか。よだかが生き延びる手段とは？よだかは決死の思いで飛び立った。

①よだかは、実にみにくい鳥です。鷹は改名しなければ殺すといわれてしまい、食べた羽虫と自分が重なって悲しくなり、どこか遠くへ行ってしまうおう、星になろうと、お日さんやお星さんに頼むのですが。

①父との信仰宗教での衝突や妹の死を乗り越えて、自然と農民生活の中ではぐくまれた独特の宇宙感覚や象徴的心情に満ちた詩と童話を残した宮沢賢治の作品の一つ。

①顔が変というだけでまわりから嫌みをいわれる鳥、よだか。その穴か、自分さえいなければとまわりのことを考え死ぬ決心を。そして、よだかは死ぬため、いろいろなところへ頼みに行くが……。

①よだかは実にみにくい鳥です。ある日、同じ名前を持っている鷹から「名前を変えろ、できなければ殺す」といわれてしまいます。さあ、よだかはどうなるのでしょうか。よだかの心が涙を誘う一冊です。

⑥「自分はなぜ生きるのか。」誰もが一度は考え自分を見失う。そんな時に選んだよだかの思いは……。あなたが悩んで落ち込んだときにあなたを強くしてくれる教科書には載っていない心の参考書。

④みにくい姿のため差別を受ける弱い鳥よだかのプライドをかけた死の選択。でもせめて最後に光りたい。よだかは願い、冷たい星明かりの中を飛び巡る。「焼けて死んでもかまいません！」

③よだかは実にみにくい鳥だ。まわりの鳥たちにひどく嫌われ挫折感に陥る。「どうして僕は生きているのだろう。」もう遠くの空に行ってしまうと高く飛び上がった！苦しみのほてに行き着いた先は……。

③いったい僕は、なぜこうみんなに嫌がられているのだろう。みにくい鳥として生まれたよだか。優しすぎるがゆえにたどり着いた結末に、誰もが涙した擬人童話の秀作。どうか私をあなたのところに連れて行ってください。

③見てくれだけでみんなは自分を認めてくれない……。だが、外見だけではわからない、内側の光を、よだかは発し続けた。そんなよだかのひたむきな態度に、心を打たれることは間違いない。その一つの存在に……。

②夜鷹はみにくい鳥だ。その上嫌われ者でもある。そして彼の絶望は唐突に始まった。果たして因果か、報いか、彼の翼は高き星々に届くのであろうか？宮沢賢治P R E S E N T S、よだかの星。

②ついに出生した宮沢賢治の最高傑作「よだかの星」。一度読まなきゃ損をする。みにくい鳥よだかは、他の鳥たちに嫌われ、ついには鷹に殺されてしまうのか。

②自分を犠牲にすることで他人につくすという理想を持っていた宮沢賢治の童話の一つ「よだか」。よだかがみんなに嫌がられてもめげないでがんばった姿を読んでみてほしいです。

②自分が生きていることの意味を分からなくなっているよだかの繊細さが描かれている。詩人・童話作家である宮沢賢治の闘病中の作品とは思えない宇宙感覚と象徴的心情に満ちた最高傑作、よだかの星！！

①見にくいよだかは、誰にも理解されることはなかったけど誰よりも、心が綺麗でした。よだかが星になれたのは、よだかの綺麗な心が燃えていたからかもしれない。

①よだかは、みにくくてみんなの嫌われ者です。生きることにつかれたよだかは、夜の空に飛び立ちました。よだかの運命はどうなるのか？よだかが、差別問題、生きることの意味を問いかけます。

①他の鳥から嫌われていたよだかは、本当は心の優しい鳥。よだかの心境が痛いほど伝わってくる物語。きつと、誰もがよだかと同じ心境になったことがあるのでは？ある日、よだかは、あることを決意する……。

①いつもいつも嫌がられるよだか、しかし一度だって他人を恨んだりしなかった。けれど、ついに耐えきれず、星になろうとするよだか。自分の力を出し切って……。よだかの星の感動をあなたに！

①よだかは、みにくい・嫌われるという言葉がぴったりな鳥。ある日よだかは、星の世界から抜け出し、いざ空の世界へ。空でも嫌われ続け力つきたよだかの結末は感動と驚き！宮沢賢治の読みやすい感動ストーリー。

①主人公は他の鳥から嫌われている不格好のよだか。みんなから居場所を追い出され、太陽や月のもとに頼みにいくのはよいのだが、……。精も根も尽き果てたよだかの運命は？そしてその後のよだかは……。

①よだかはみにくい鳥で誰からも嫌われていた。そんなある日、突然鷹に改名をせまられて困るよだか。空を飛びながらよだかはあることに気づく。よだかの葛藤とその意外な答えに驚かされる小説。

①みにくい姿と、優しい心を持つ「よだか」は、そのみにくい姿から、みんなに嫌われ、のけ者にされる。よだかは、たえきれずに、自由を求めて旅立つ。星になりたかったよだかはかなくも悲しい物語。

①みにくいという理由で他の鳥からいじめられ、生きるのさえ嫌になったよだか。しかしみにくいアヒルの子が美しい白鳥になるようによだかはどの鳥より美しく輝いた、世界に一つしかない星になったよだかの一生。

①体が大きくて、みにくい顔。悪役にいそうなよだか。だが、見た目からは想像もつかない「優しい心」。虫を殺せないよだかは、苦悩のあけく、一つの決意を胸に今、飛び立った……。

①とてもみにくいじめられているよだか、なぜ自分だけがこんな目に……。と苦悩するよだかの姿を見て私は今のいじめ問題について改めて考え直しました。みなさんもこれを読んで考え直してみませんか？